

「主の豊かな恵みによって」
詩篇5篇(宣教要旨)
説教者 A.Na



「あなた」ということばが繰り返される…主が、私たちの歩みのすべてに、恵みと導きを与え、道を示してくださる。私たちが「あなた」と親しく、また慕って呼びかける主が、いつも中心におられることに気づかされる。

《7節…真の礼拝とは》

私たちは生まれながらに罪の性質を持ち、神の御前に到底出ることのできない者であった。

しかし、イエス・キリストの十字架の贖いのみわざにより、神へと近づけさせていただけようになった。イエス・キリストは私たち人間と神との仲介者であり、私たちは今や、神の豊かな恵みによって、御前に出て祈りと賛美、礼拝をお献げすることができる。

「礼拝」という語の中心には「ひれ伏す」や「仕える」という意味がある。礼拝とは神の御前に自らを低くしひれ伏し、神に従いお仕えする、この本質を忘れずにいたい。

神の豊かな恵みによって、神の御前に招かれ、御前に進み出ていく。そして、神を私の主であると信じ、主を恐れつつ、頭を垂れて、悔い改め、そしてひれ伏す(詩95:1-6)。

《8,9節…主のさばきを求める祈り》

「待ち伏せている者」…信仰を妨げる存在であり、私たちを主から離そうとする者。

私たちの人生には、坂道や落とし穴、険しくて歩むことに疲れを覚えるようなことが多々あり、信仰を妨げようとする存在や出来事がある。しかし、つまずき、よろけそうになる時こそ「主よ」と祈りたい。主があなたを導き、あなたの前に主の道をまっすぐにしてください。

9節…すべての人が罪の下にあり、神に対

する恐れがない者には、破壊と悲慘がある(ローマ3:13,14)。人間の罪とは、心の奥に根ざし、ことばに表れる。人間の持つ罪の性質は根深く、考えたり思いを巡らす心のうちに悪意を蓄え、口、喉、舌のすべてをもって嘘や悪口、真実でないむなしいことばを語る。

《10節…神の義を求める祈り》

そのような悪者の巧妙さがあるがゆえに、10節以降で神の義、真に正しい神のさばきを求め祈る。自分の個人的な復讐心からでなく、神の正義を求める祈りである(IIサム15:31)。

《11,12節…主に身を避ける者への祝福》

主を呼び求め、主の義なるさばきを祈り、またその祈りに応えてくださる主に応答していく時、個人だけでなく、信仰の共同体である愛する兄弟姉妹と喜びを共にし、御名をほめたたえる。それは永遠に続く喜びである。

「あなたに身を避ける者」…神のことばに従い謙遜に生きる者。

「御名を愛する者たち」…御名は神ご自身を表す。昔おられ、今もおられ、やがて再び来られる主は、『わたしはある』という者である」と御名を示された(出3:14)。神ご自身を愛する者たちは主を誇ろう(エレ9:23,24)。

主は正しい者を祝福して下さり、悪者や悪が私の周りであったとしても、全身を防衛する盾のように、主のいつくしみでおおってください。主の前に正しい者は、主の祝福を受け、主の完全な守りのうちに歩むことができる。

神を第一とし、時間と場所を取り分けて、御前に備えをし、日々祈る。主を恐れ、主を信じみことばに聞き従い、主ご自身を愛する。そのような主との交わり、主との正しい関係を保たせていただきたい。

主の豊かな恵みによって、自分からでなく主の招きに応じて、今日もこれからも、主の御前に進み行き、主を恐れ、主の御前にひれ伏す。主を喜び主を賛美する本当の礼拝をお献げする私たちでありますように。それぞれに祈りつつ、今週も歩みましょう。